



私は8月～9月上旬の間で3回、陸前高田に同行させていただきました。報告会の参加は今回が初めてでした。石巻は地域間の関係や子ども達の様子が、陸前高田とは違うということは耳にしていました。実際に報告会話を聞いた時には、大きく違っている部分や、同じ部分がありました。違っている部分としてはルールの徹底で、生活の延長ではなく別の空間を区別することができたということでした。同じ部分としては目的を持つ意味という部分では陸前高田も石巻も共通していたと思います。目的を持つことで子どもたちとの接し方や関係が築けると思いました。また子ども達が集まる集会所は、子ども達にとっては居心地が良かった場所ではないかと感じました。富岡町では教育関連の話だけにとどまらず、その先には原発という大きな問題もあるということも知りました。また今回の支援というのは、がれきの撤去なのではなく、外部の人が内部の人達の地域の交流関係やネットワークを作るための支援だということを再認識しました。

報告会に来て良かったと感じたのは、同じ気持ちで被災地に向かった方がいたということでした。私は最初に行く時、私が本当に行ってよいのか、行って何も出来なかったらどうすればよいのか不安がありました。しかし1度目の支援から帰って来た時には、またあの子ども達に会いに行き、子ども達のために何かしたいと思っていました。今回の支援で私自身気持ちの持ち方や、考え方が変わったと感じています。どのように変わったのか具体的には言葉にできないのですが、何かが変わりました。こう思っていたのは私だけだと思っていたのですが同じような考えの方がいて共感できました。

支援や報告会を通して言葉というものはとても重要で難しいものだと思います。自分の言葉で話すことによって、自分の中での整理にもつながります。しかし、どうやって自分の言葉にして伝えるのかということではとても難しいことだと感じました。

最後の意見交換の際に、ある企業に勤めている方の意見があり、企業としての支援の在り方についても勉強になりました。企業の支援にはメリットとデメリットがあり、企業の支援としては雇用を増やすことが大切だということを知りました。さらに良いのは、1つの企業が一部の場所の支援を行ってゆき、多くの企業が同じやり方をし、復興させていくことがベストだということでした。それほど今回の大震災は大きなものだと感じました。

いまだに、支援に行って何をすることができたのかわかりません。報告会に参加してもわかりませんでした。しかし、同じ考えの方がいたこと、今までは陸前高田という1つの枠だけで考えてきたことが、今回の報告会で石巻や富岡町など違うところにも目を向け考えることができました。今後も支援に携わっていきたいと思いました。

(玉川大学学生 馬場貴司)

かったのは色々言い訳があるのですが、「自分の考えがまとまらなかった…」のが理由の一つです。4月に初めて参加した時は、とにかく何か出来ることをしたい！ボランティア＝瓦礫撤去というイメージしか持たないような状況で参加を希望しやる気満々で長靴を購入、柿本先生に心配されながら「大丈夫です！」と元気で答えたりしていました。TVなどでは、連日現地の悲惨な状況を大変だ！大変だ！という感じで報道していて私もなにか少し興奮した気持ちで現地に向いました。

しかし、実際に陸前高田の町に立って感じたことは想像していた以上に見渡す限り何もなく、人の姿やざわめきも全くなく、し～と静まりかえっていました。どれだけ津波が凄かったか…信じられないほどグンニャリ曲がった太い鉄骨、スクラップ以上にスクラップ状態の車、建物の三階まで水か来たことを物語る残ったアパート。わぁ…と言ったまま開いた口をとじることが出来ませんでした。「これでもだいふ片づいて来たわね」という清水さんの話しに、そうか少しづつでも状況は前に進んでいるんだ。この状況の中で私に出来ることは何だろう、瓦礫の撤去も人手が必要だがやはり柿本先生がおっしゃっていた「教育支援」、まがりなりにも教育に携わっているのだから自分の出来る事は“教育”というパーツの支援のお手伝いか…色々な人たちが自分の専門性を生かしそれぞれのパーツを支援しジグソーパズルのようにはめ込んでいくと復興という形が出来ていくのだろうかなど漠然と思いました。

報告会では考えがまとまらない自分と比較し、皆さんが活動から何を感じてどんな考えを持っているのか、そこが聞きたく話しに耳を傾けました。Edベンチャーの発行する通信を見て参加してきた方は自分たちの会社も何か動き出そうとしているそのための情報収集として参加した、とのことアンテナの高さに感心すると共にこうやって人脈が広がって行く心強さも感じました。また、子供達との関わりは（私はこの分野に関わる事はためらっています、なぜなら自分の状況から確実に長期的にかかれないと思ったから）根気よく、しかし柔軟に変化しながら支援を継続している、まとめの会を開催ししっかり振り返りを行い区切りもつけている。報告会のたびに私は皆さんのすばらしさ、自分の足りなさに「う～ん」となることばかり。「大胆かつ繊細」という言葉がありますが支援の活動はこんな言葉が当てはまるかな～とも感じました。、より良い支援のありかた”とは何か！勉強させられる事ばかりです。自分の考えがまとまらないことにとまどっていましたが、振り返り反省する事は必要だが、かっこいい言葉で締めくくる必要はない、このまま現在進行形で出来ることをしていく。10/13の報告会に参加しこの半年間での様々な思いが少しまとまった気がしました。

(引地台中学校 笹本雪子)

4月・7月の2回、陸前高田への支援に参加しました。その報告書をまだ書いていなかったで「報告会に参加して」と合わせてまとめます。報告書が書けな

第1回から報告会に参加させていただいています。今回は、4月から今に至るまでの学校支援活動・子ども支援活動についてプロセスを追っての丁寧なまとめと今後の見通しについての報告でした。私自身は7月第1週目と第3週目の2回、支援隊に

加えていただきました。正直、1回目は自分にできることがあるのかとても不安でした。まず“自分の目で見て、感じて、考える機会とする”という思いで行きました。震災から4ヶ月経っていたので、復興の動きが感じられはするものの、陸前高田市全体が津波で流されて無くなってしまった姿にはやはり呆然としてしまいました。ちょうど広田中の運動会でしたが、瓦礫の山をバックに大漁旗がはためく中、全校生徒の明るい声が響いていた光景が目に残りました。石巻のライオン隊との関わりは一見さんだったので、様子見でしかありませんでした。2回目は陸前高田の小・中学校の学校図書の手帳作成をお手伝いしました。微力ながら、“ハチドリの一とせずく”の思いでやらせていただきました。この6ヶ月間、継続的かつ精力的に支援活動を続けて来られた Ed.ベンチャーの皆様方には心から敬意を表したいと思います。今回の報告会の資料を見せていただいて、多角的に捉え、また分析し、今後の見通しを立てているところがとても勉強になりました。学校支援活動については、それぞれのニーズに応じていきながら、地元回復力へと繋げていく大切さ。また子ども支援活動については、長期的に子どもたちに寄り添い、それぞれが抱え込んでいる問題を受け止めてあげることで、明らかな変容が見られたことは素晴らしい成果だと思いました。いつも君たちのことを見守っているよ！という暖かいまなざしを彼らが感じとってくれていることと思います。

報告会の感想からは離れてしましますが、私はやはり教員として、「震災からはじまる学びはどうあるべきか」を考えなくてはいけないと思っています。4月下旬に DEAR（開発教育協会）主催の「震災をどう授業で扱うか」というワークショップに参加しました。そこでは、被災地や被災者を「教材」として扱うのではなく、学習者自身が感じたことを語り合い、思いを共有すること、他者の気持ちや考えに気づくこと、また震災に対するさまざまな気持ちを「未来を変えていく力」につなげられるように今の社会を見つめ直すことを目的としていました。また、6月下旬に総合学習の発表で横浜の小学校の先生が6年生対象に「言葉の力」という角度から、3月の選抜高校野球開会式での力強い選手宣誓や、気仙沼市立階上中学校の卒業式の感動的な答辞を取り上げた実践を聞きました。ボランティア・支援・協力について、原発（脱力系反原発アニメ「源八おじさんとタマ」の利用）・エネルギーについて、地震・災害・防災について、メディアリテラシーや報道（“一億洗脳化社会”？）についてなど様々な切り口があると思われるので、各教科、特活・総合の視点で何か実践していきたいと考えています。

（光丘中学校 日比和子）

■ 報告会によせられた意見・提案 ■

いつも通信を読ませていただいております。

万石浦での子ども支援の方向性に関して外野からの戯言ですが一言だけ。

通信を読ませていただくと、これまでの取組によって、子ども達や親御さんが安心し、また信頼できる居場所づくりができていていると思います。しかし、いずれかのタイミングで支援は終了しなければならないものだと思います。それを見越して「居場所」を Ed.ベンチャーさんではない別の団体が担っていくことはできないでしょうか。もちろん運営主体が変われば、「居場所」の性格も大きく変化してしまうことは十分承知していま

す。しかし、Ed.ベンチャーさんの撤退によって、子ども達が会う機会まで喪失されてしまうのは残念だなと思いました。

そこで、まだ Ed.ベンチャーさんが関わるのであれば、その間に後を担う団体さんにも一緒に加わってもらって、引継ぎをしながら「居場所」を承継できるといいのかなと思います。（後を担う団体はやはり地元の団体がいいと思います。市、ボランティアセンター、社会福祉協議会等にそういった団体を紹介してもらおうとよいかと思いました。）

昨日で石巻市内のすべての避難所が閉鎖され、子どもだけではなく、大人たちにとってもコミュニティの喪失は大きな問題になりそうですね。そんな中で、いち早くから子ども達の支援を続けてこられた Ed.ベンチャーさんにはほんとに頭の下がる思いです。

（神奈川県商業流通課 岸岡真人）

今日はうかがえず、残念に思っておりますが、一つ、ご相談（ご提案）があつてメールを送ります。

万石浦支援の最初のころから、鉛筆の持ち方が悪いために字を書くスピードが極端におそかったり、字が下手だったりする子どものことが気になっていました。考えていること、思いついていることに、字がまったく追いついていない感じがします。今後、勉強が難しくなっていくなかで、これは大きなハンディとなると思われ、放っておけないが、どうしたらいいのだろう、とっていました。

先日、仕事先で一緒になった方が、鉛筆の持ち方の矯正をすることを専門に研究なさっておいで（大阪の「児童かきかた研究所」）、多くの実績をあげていらっしゃいました。そして、大小2種類の練習具を分けてくださいました。軽い、小さな道具です。これが、大小各15個あります。小は4年生くらいまで、大はその上から大人まで、という感じです。右利き、左きき、どちらにも使えます。

私は11月の支援も参加できないのですが、もしもよろしければ、事務局に練習具を送りますので、活動の一部に取り入れてみるのはどうでしょうか。根気よく取り組まないと直らないでしょうが、それでも、やらなければ何もはじまらないので。この練習具で箸の持ち方も直すそうです。

字をさっさと、わかりやすく書くことは、生涯にわたって基本的な力となるでしょうから、なんとかしてあげたい、と思い、提案します。いかがでしょうか。（荻谷夏子）

[今後も継続的に感想・意見を随時掲載していきたいと思っております。](#)

[ご感想・ご意見を是非お寄せください。](#)

今後の継続的な支援の活動のために広く寄付を募っております。

横浜銀行 中央林間支店 普通6018180

Ed.ベンチャー東日本大震災支援（エドベンチャーヒガシニホンダイシンサイシエン）

NPO法人教育支援グループ Ed.ベンチャー

〒242-0007 大和市中央林間 3-16-12-107

Tel/Fax:046-272-8980 e-mail: toiwase@edventure.jp

